

開会挨拶

きかわだ ひとし
黄川田 仁志

内閣府特命担当大臣

開会挨拶のアーカイブ視聴はこちらから：

代読：内閣府政策統括官（共生・共助担当）付高齢社会対策担当 小池 智歌企画官



本日は、令和7年度高齢社会フォーラムにご参加いただき、誠にありがとうございます。また、ご登壇いただく有識者の皆様、共催の熊本市のお力を得て、このようにフォーラムを盛大に開催できることを、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

さて、我が国では65歳以上の方の総人口に占める割合は29.3%と、世界で最も高い水準にあります。さらに2037年には33.3%と国民の1/3が65歳以上となることが見込まれております。こうした中で、高齢化の進展に伴い、一人暮らしの高齢者の増加といったライフスタイルの変化や、認知機能が低下する方の増加等に伴う様々な影響や課題が懸念されているところです。

一方で、我が国の平均寿命はこの20年間で男女ともに約3歳延びるなど上昇傾向にあり、高齢者の体力的な若返りも指摘されています。加えて、65歳以上の就業者や社会活動に参加されている方も近年増加傾向にあります。こうした状況を踏まえ、政府においては、昨年9月に新たな高齢社会対策大綱を策定いたしました。新たな大綱では、年齢に関わりなく希望に応じて活躍し続けられる経済社会の構築、多世代が共に安心して暮らせる社会の構築、身体機能、認知機能の変化に対応したきめ細かな施策展開、社会システムの構築という3つの基本的考え方に基づき、地域における社会参加活動の促進等を含め、関連施策を政府一丸となって推進していくこととしております。

本日のフォーラムでは、みんなの「ふるさと」を作る – 多世代交流を通した誰もが活躍できる地域づくり – というテーマのもと、有識者の皆様に、現場でのご経験や専門的な知見も踏まえた活発なご議論をいただきたいと考えております。そのほか、内閣府で新たに始めた多世代参画による地域の担い手の掘り起こし、地域課題とのマッチングを行う実証事業について、熊本市のNPOの取組をご紹介いただくとともに、年齢にとらわれず生き生きとした生活を送られている皆様に対し、本年内閣府が表章を行った事例を紹介することとしております。受章者の皆様の活動に心より敬意を表しますとともに、今後の更なるご活躍を祈念いたします。

結びに、本日のフォーラムを通じて、皆様が新しい発見や活動のヒントを得て、それぞれの地域で実践につなげていただくことを期待いたしまして、私からの挨拶とさせていただきます。